

# 儲かる磯根漁業をめざした経営改善に関する研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成26～28年度)

担当：水産技術研究所伊豆分場 高木康次

## 【研究の背景とねらい】

伊豆地域ではイセエビやアワビ、サザエ等の貝類、テングサ等の様々な磯根資源が豊かであり、沿岸の集落では多くの漁業者が生活の糧としてきました。磯根資源は食料としての役割の他に、伊豆地域へ人を呼び込む観光資源として大きく貢献してきました。

一方で、漁業者の高齢化と漁村の過疎化が進み、磯根漁業の存続が懸念されるとともに限界集落化しつつある地域もみられています。

このような状況から、漁村の維持、発展のため、収益性を向上させ、若い世代が参入してくる新しい磯根漁業の仕組みが必要です。そこで、伊豆の磯根資源を代表しているテングサについて利用実態を詳細に把握するとともに、漁業経営の改善手法を提案します。

## 【これまでに得られた成果】

(平成27年度の成果)

テングサ価格形成要因の把握 (入札参加業者への聞き取り調査)

- ・ ところてん製造業者が求める評価の高いテングサは、硬くて太いものであり、これがところてんの粘度、強度、香りに反映されることが分かりました。
- ・ 全国的な漁獲量減少にともない需要に対して供給が追いついていない状況にあり、伊豆のテングサの入札価格が高騰していました。

漁場改善手法の検討

- ・ 荒廃したテングサ場を回復させる手法としてテングサ以外の雑藻駆除の効果調査を行い、完全に荒廃した漁場(テングサ被度数%)でも、被度を上昇させることが可能であることを明らかにしました(図1)。
- ・ 2015年12月までの各月潜水調査により、8月の雑藻駆除区で当初より被度が8倍に上昇し、駆除の適期と考えられました。

操業者減少への対応

- ・ 稲取地区をモデル地区とし、地元ダイビングショップのダイバーを雇用する新たなビジネスモデルを進めています。
- ・ 第一段階として、ダイバーと漁業者の協働によるテングサ場での6回の雑藻駆除活動(写真1)を指導しました。

## 【期待される成果】

- ・ 新たな漁業スタイルの定着により漁業収益が増大し、磯根漁業の再生とともに、若者の漁業への就業促進や磯根資源の安定供給が見込まれます。

## 【今後の計画】

- ・ ダイバーを雇用するビジネスモデルを稲取地区で確立します。(作成 平成28年4月)

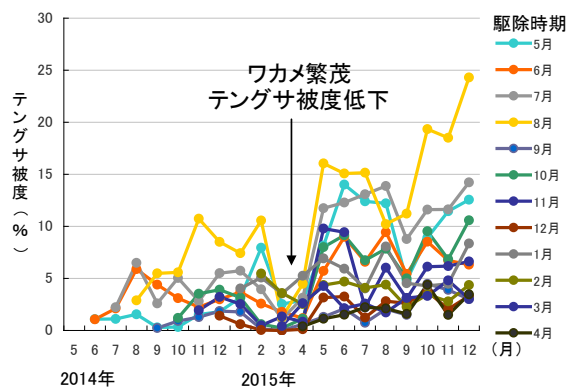


図1 月別雑藻駆除のテングサ被度の推移



写真1 ダイバー等による雑藻駆除活動